

ひょうご部落解放・人権研究所

編集・発行 /

一般社団法人 ひょうご部落解放・人権研究所

HB 通信

Hyogo Buraku Liberation and Human Rights Research Institute

〒 650-0003

神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2 階

TEL : 078-252-8280 FAX : 078-252-8281

e-mail : blrhyg@extra.ocn.ne.jp

URL : <http://www6.ocn.ne.jp/~blrhyg/>

HB 通信 再刊のお知らせ

HB通信は、各種行事の案内、新着図書の紹介、近所のお店紹介など、研究所やイベント等と皆様をつなぐ様々な情報をお伝えしてきました。

2008年4月の発刊以来、2012年1月まで10号を数えましたが、その後諸般の事情で事実上休刊となり、一年以上に亘り中断していました。その間、HB通信を安定的に皆様にお届けできるよう検討した結果、年4回（4月、7月、10月、1月）、主にEメールによって配信することにしました。配信希望の方、印刷したものをご希望の方は、研究所までお知らせください。

また、機関誌『ひょうご部落解放』には書籍の紹介コーナーがあり、比較的最近に刊行された、人権問題にある程度関係のある本を対象にしています。しかし、手に入りにくい古い本や、人権と特に関係のなさそうな本のなかにも、ぜひ読んでほしいものがたくさんあります。そこで、HB通信の再刊にあたり、ジャンルや、古い新しいにこだわらない本の紹介コーナーと、特に漫画を紹介するコーナーを新設しました。事務局員が色々な意味で面白いと思ったものを紹介していく予定です。

再スタートを切ったHB通信を、よろしくお願ひ致します。

研究所事務局一同

新着図書

2011年11月

- 『兵庫におけるあいつぐ差別事件 No. 13』（部落解放同盟兵庫県連合会、2011.4）

12月

- 『人権学習資料 30 労働者の人権－「働きがい」のある職場をめざして』（鳥取県人権文化センター、2011.11）
- 『第15回尼崎伊丹地区 在日外国人教育講座』（尼崎伊丹在日外国人教育講座実行委員会、2012.1）
- 『部落解放同盟兵庫県連合会機関紙 解放新聞兵庫版 第746号～第771号』（解放新聞社兵庫支局）
- 『あまがさき 人権まつり－熱と光の祭典』（あまがさき人権まつり11実行委員会、2011.12）
- 『人権問題研究叢書 4 講座・人権ゆかりの地をたずねて 2011年度講演録』（世界人権問題研究センター、2012.2）

2012年3月

- 『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』（ロニー・アレキサンダー文・絵、エピック、2012.1）
- 『人権問題研究叢書 5 人権から見た近代京都』（秋定嘉和、世界人権問題研究センター、2012.3）
- 『人権問題研究叢書 3 朝鮮通信使と京都』（仲尾宏、世界人権問題研究センター、2011.12）
- 『平成23年度のじぎく文芸賞』（兵庫県人権啓発協会編、兵庫県／兵庫県人権啓発協会、2011.12）
- 『鳥取県人権文化センター人権学習ブックレット 14 働く！～労働と人権にかかわる学習プログラム集』（鳥取県人権文化センター、2012.3）
- 『人権学習シリーズ Vo18 わたしを生きる－アイデンティティと尊厳』（大阪府人権協会、大阪府府民文化人権室）

- 『在日コリアン人権白書 2011 年版』（井上正一 / 高敬一編、大阪国際理解教育研究センター (KMJ)、2011.2)
- 『KMJ ブックレット 2 新しい在留管理制度と在日外国人の人権』（仲尾宏 / 高敬一編著、大阪国際理解教育研究センター (KMJ)、2012.6)

5月

- 『反差別国際運動日本委員会 (IMADR-JC) 第23回総会議案書』（反差別国際運動日本委員会刊、2012.6)
- 『AWEP 女性のハンドクラフトフェアトレードカタログ』（アジア女性自立プロジェクト (AWEP)、2011.2)
- 『2011年度 近畿大学学生の人権意識調査報告書 (ハンセン病問題並びに HIV 問題編)』（近畿大学人権問題研究所、2012.3)
- 『第16回統一マダン神戸 パンフレット』（統一マダン神戸実行委員会、2012.6)

6月

- 『2011年度部落史連続講座 講演録』（京都部落問題研究資料センター、2012.3)
- 『人権問題研究叢書6 京都のなかの渡来文化』（上田正昭、世界人権問題研究センター、2012.4)

※一部を除く所蔵図書の「のじぎく会館」への寄贈等のため、図書の整理が遅れております。一部利用できない図書がありますので、図書をご覧になりたい方は、必ず事前にお問い合わせください。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

まんかのすゝめ



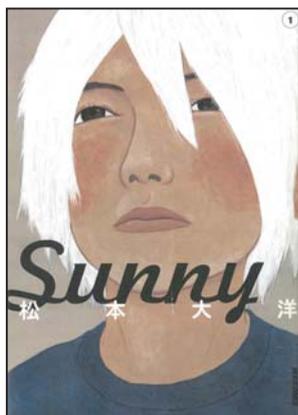
『SUNNY』

第1集～第3集

松本大洋 / 小学館 IKKICOMIXS

2011年～2013年以下続刊

定価:各905円(税抜)



松本大洋という作家の絵は不思議である。一見するとうまいのか、下手なのかわからない。好き嫌いがはっきりわかる画風だ。だが、一度慣れてしまうと、この作家の描写力は、う～ん、とうなってしまふほど繊細でち密であることがわかる。登場人物の心の機微まで詳細に描き出し、心をわしづかみにしてしまう。

今回紹介する『SUNNY』は、『月刊IKKI』という雑誌に今も連載中の作品である。舞台は児童養護施設「星の子学園」。さまざまな事情により親と離れて暮らす子どもたちの姿を描く。時代背景は、子どもたちが歌う歌謡曲やテレビ番組から推測すると、おそらく1970年代後半から80年代前半か。ノスタルジックな雰囲気とともに、関西弁のストレートなセリフ回しが、実にリアルで生々しい。

タイトルの『SUNNY』とは、園の片隅に放置され、子どもたちの遊び場となっている日産サニーの廃車のこと。狭い空間の中で子どもたちは空想を膨らませ、ときにハードボイルドなドラマの主人公になり、ときに「大人の女性」になって、恋のかけひきを人形相手にアドバイス。そしてときにお母さんと暮らした懐かしい団地へと、一直線に車を走らせる――。

星の子学園での生活は賑やかで、仲間もたくさんいるけれど、子どもたちはそれぞれに園を出て、親と暮らしたいと渴望する。でもそれは叶わないということもどこかで感じとっていて、小さな体の隅っこに、さびしさを封じこめる。

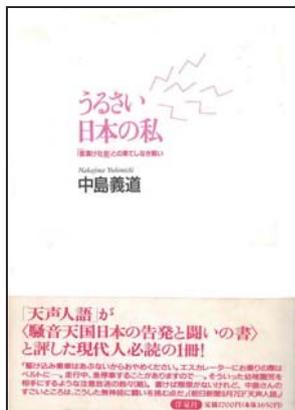
「あんな――、オレ、ほんま言うとお母さんに会いたないねん」「え――」「ちゃうで。会いたいねんで。会いたいんやけどなあ…。会うてまうと、もう別れるときのこと考えて、胸んトコいっばいになんねん」

作者の松本自身も幼少期を養護施設で過ごしたという。だからこそ、どんなに無責任でも、自堕落でも、子どもたちにとって親はかけがえのない存在であり、「居場所」なのだというメッセージが、リアリティをもって、心に訴えかけるのかもしれない。(K)

本の紹介

『うるさい日本の私 「音漬け社会」との果てしなき戦い』

中島義道著、洋泉社、1996年刊、定価1650円（税抜）（絶版）



たまに乗る路線バスでは、こんな車内放送が流れる。
——乗客の皆さん、空き缶やゴミなどのポイ捨てはやめましょう。また、門掃きや町内清掃に取り組み、町の美化にご協力ください。一人ひとりの力を合わせ、世界で一番美しい町・△△を実現しましょう。

乗り物、駅や店舗、路上、あらゆる空間で、注意、提案、宣伝、おわび、お礼、挨拶などが、時には何度も繰り返し、時には大音量で、スピーカーから流れてくる。しかも上記のように、実効性を期待しているとはとても思えないものが多い。私の場合、こういったスピーカー音は大音量ならたまらないが、そうでなければ、ちょっと嫌だと思っても聞き流して平気である。

しかし、聞き流せず不快で仕方がない、あまりにも不快で生活に支障が出るという人もいます。例えば、哲学者の中島義道は、あらゆる空間にあふれかえるスピーカー音に苦しみ、抗議を繰り返している。今回紹介する本は、中島の「音漬け社会」につ

ての分析と、「果てしなく虚しい戦い」の記録である。日本では、中島のような「スピーカー音恐怖症」の人は少なく、その苦しさ深刻さ自体がマジョリティに対してなかなか伝わらない。そのため、「わがままだ」と言われ、「おまえが一番うるさい」と言われ、奇人変人扱いされ、せせら笑われ、無視され、対話が成立しない。

本書は、大手の新聞や雑誌の書評欄、朝日新聞の天声人語(1996年9月7日付)にも取り上げられるなど、話題になった。後に新潮文庫に入り、続編も刊行されている(続編は未読。いずれも絶版だがインターネット等で容易に手に入る)。

本書により、スピーカー音の問題についてはある程度一般的になったと思うが、それでも内容は古びてはいない。単に、「スピーカー音恐怖症」の人の苦しみに対して理解を求め、音環境を良くしていきましょうと主張しているのではなく、どうして日本は「音漬け社会」なのか、どうして対話が成立しないのか、そういった考察から、「真の加害者」である「善良な市民」を告発しているからだ。

中島が「被差別部落出身者、身体障害者、薬害エイズの犠牲者など」を「社会的に公認されたマイノリティ」とし、自分のようなマイノリティと分けて考えて済ましているようなところは物足りないが、示唆に富む一冊である。(Ka)

人権教育ひょうご 第16回総会

(「人権教育のための国連10年」兵庫県推進連絡会)

日時：2013年5月25日(土) 13:30～

場所：ラッセホール(〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8)

講演：『踏み出して景色を変えよう』

川崎那恵(かわさきともえ)さん

【プロフィール】

1983年大阪生まれ。京都暮らし。両親が大阪市内の部落出身だったことから、大学在学中に部落問題についての授業を受け、自分のルーツと向き合うようになる。学生時代より各地の部落で交流を重ね、個別具体的なひとと出会い、言葉を交わすことで「部落問題とは何か」が伝わっていくことが大事だと思うようになる。現在、大学の事務職員として働きながら、友人たちと部落に関する情報発信やイベント企画など、マイペースで取り組んでいる。

●ブログ 寝た子を起こして、仲良くごはん。http://d.hatena.ne.jp/tomoe-gohan/

●「わたし」から始まる「部落」の情報発信サイト BURAKU HERITAGE

http://www.burakuheritage.com

お問合せ：人権教育ひょうご事務局 TEL：078-241-2345



【アクセス】

◎神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車、徒歩5分

◎JR・阪神「元町駅」下車、徒歩8分

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

『人権歴史マップ』連続セミナーのご案内

研究所では兵庫県下を6つの地域に分け、『人権歴史マップ』を発行してきました。今年度は『淡路・神戸増補版』を発行する予定です。そこで、フィールドワークや研修などで、より広く活用していただくために、『人権歴史マップ』連続セミナーを開催することになりました。今年は『神戸版』に掲載した項目の中から、研究者や執筆者の方々をお招きし、6回コースで学習します。期間中にはフィールドワークも予定しています。地域の歴史を学ぶことで、見慣れた景色がちがって見えるかもしれません。たくさんの皆さまのご参加をお待ちしております。

●第1回

生田川の付替えと屠場

—新川部落と賀川豊彦

講師：本郷浩二さん（京都産業大学他非常勤講師）

日時：2013年5月11日（土）午後2時～3時半

場所：兵庫人権会館2階 ※時間・会場は全回同じです。



現在の生田川

●第2回

大輪田橋と神戸空襲戦没者慰霊碑

—犠牲者を記録すること

講師：中田政子さん

（神戸空襲を記録する会代表）

日時：7月13日（土）

●第3回

神戸電鉄朝鮮人労働者モニュメント

—神戸に残る朝鮮人の記録

講師：飛田雄一さん

（神戸学生青年センター館長）

日時：9月7日（土）

●第4回

孫文と神戸—神戸華僑の歴史と孫文

講師：安井三吉さん

（神戸大学名誉教授／孫中山記念館理事）

日時：11月30日（土）

●第5回

人・街・ながた震災資料室

—震災から19年、復興への道のり

講師：未定

日時：2014年1月初旬（予定）

★全6回共通★

場所：兵庫人権会館2階

時間：午後2時～3時30分

参加資料代：1回500円

●第6回

マッチ工場からケミカルシューズへ

—『靴の街ながた』形成史

講師：堀内稔さん（むくげの会会員）

日時：2014年3月8日（土）

※連続セミナーにすべて参加された方には「修了書」をお渡しいたします。（もちろん、一回だけでも参加できます）

※日程が未定の場合は、決まり次第『HB通信』『ひょうご部落解放』研究所ホームページ等でお知らせいたします。

なお、講師、内容等が変更になる場合もございます。ご了承ください。

※できるだけ事前にお申込みください。

【お申込み・お問合せ】

（社）ひょうご部落解放・人権研究所

電話（078）252-8280 / FAX（078）252-8281

メール：blrhyg@extra.ocn.ne.jp

★お申込みは、ホームページからも可能です★